



ナ 1  
4126











農家日用曆

正月元日の風  
多々年中依  
元日雨多くと  
心算方より大風  
と其年中小多  
死と依ると  
元日平且北より  
大風吹は其去  
民多死と事有  
元日外大風と  
依て北風吹と

百姓今川准丈  
一 時候と海と  
一 家終小を化と云る莫  
一 弓鉄炮の御禁制と  
一 破と云て蓋乃殺は  
社と事

一年負重由細  
味以遂大切事  
地頭代官を  
と省と事  
一 諸洋信  
一 成在と事進急  
小物



其を万民病し  
のり大槪十の中心  
三人八病は  
元日乃日中  
風の起るるわれ  
其を万民多死  
元日終日  
其年中大病  
元日南風  
年早

系納本  
一 村社の神  
破壊 宗禮等  
家柄と  
勤之  
沖巡身道  
礼と

元日南風  
其年中大病  
元日終日  
其年中大病  
元日南風  
年早

礼と  
勤之  
家柄と  
勤之  
沖巡身道  
礼と  
先祖  
と礼



て貴族も安く  
民も安んじて病

元日天皇を  
風吹て其年を

あつちうひも  
よく万民悦び

二月五日風吹  
所色に万民悦

三月成の月あり  
あつちうひも

あつちうひも  
よく万民悦び

あつちうひも  
よく万民悦び

あつちうひも  
よく万民悦び

あつちうひも  
よく万民悦び

あつちうひも  
よく万民悦び

あつちうひも  
よく万民悦び

あつちうひも  
よく万民悦び

あつちうひも  
よく万民悦び

あつちうひも  
よく万民悦び

一 終の年系、暮るて公夏

一 祈禱を心せし事

一 諸種地并灰菌等絶

一 少くを種く事

一 他の横成依ぬ人の成を

一 採り隠田等く事

一 秋穀と好酒宴持典

一 正月待日待と号し持典

一 正月待日待と号し持典

一 正月待日待と号し持典

一 正月待日待と号し持典

一 正月待日待と号し持典

一 正月待日待と号し持典

一 正月待日待と号し持典

白姓



七月 夏秋の吹る風  
 八月 秋分は 夜  
 九月 秋分は 夜  
 十月 秋分は 夜  
 十一月 秋分は 夜  
 十二月 秋分は 夜

一 乃 達 心 を 操 心 六  
 是 心 操 心 心 操 心 心  
 道 十 人 奏 奉  
 一 儀 代 厚 子 者 老 孝  
 孝 公 人 多 子 老 孝  
 孝 公 人 多 子 老 孝



此 乃 物 振 換 止  
 河 豆 春 前 節 あり  
 月 の 中 去 分 け あり  
 十 七 日 小 小 あり  
 風 の 方 物 生 長 あり  
 十 七 日 小 小 あり

規 矩 心 多 物 心 の 儀 儀  
 種 前 心 多 物 心 の 儀 儀  
 素 節 心 多 物 心 の 儀 儀  
 素 節 心 多 物 心 の 儀 儀

百姓



秋分後七月の中  
吹風の方物成  
風の方物成秋分  
後七月の中  
吹風の方物成  
風の方物成秋分  
後七月の中  
吹風の方物成  
風の方物成秋分  
後七月の中

秋分後七月の中  
吹風の方物成  
風の方物成秋分  
後七月の中  
吹風の方物成  
風の方物成秋分  
後七月の中  
吹風の方物成  
風の方物成秋分  
後七月の中

百生

苗代... 八月... 野  
先... 身... 毒... 之  
下... 氣... 之... 素... 和... 之

茶... 豆... 角... 巨... 子... 葉  
榨... 黍... 蜀... 黍... 胡... 麻... 絲... 生... 房  
肥... 之... 下... 茵... 馬... 黃... 子... 之... 端... 草  
籊... 卑... 臭... 腸... 積... 若... 何... 難... 宜  
揉... 油... 絞... 粕... 茶... 葉... 皮... 之... 生... 地... 不... 其



吹風方物換接連  
以上の候の大抵の  
く早又六日移る  
ゆく一年と八日に  
つきて考ふる事也  
扱冬十月申日正  
月節の日二月申  
日三月節の日二月  
申日七月節の日  
八月申の日十月節  
の日世目お後二月  
ふふやくした風ぬ  
のどは其後軍兵  
日乃間天地を

潮ひて方抱ふ  
しく業て念安全  
あて病もどく  
のたあ目をと云  
目を前み風ぬれ  
る其後軍兵六日  
るの急をりく降止  
表又たの目りの六  
月も後一ぬわは  
まほ軍兵を  
早と候ふく  
扱又も風ぬれ  
水風を  
濃なるを風

水は海河内川有七  
の汚り子案出子此  
用は垢浚水  
いり扱端  
先入埋梅  
諸国板垣  
筒車  
洗ボ  
と蒲也  
換其上  
濃清也  
百は満化

筒車  
洗ボ  
と蒲也  
換其上  
濃清也  
百は満化

百生



燥く新しき也  
東風ハ温なり西  
南乃南より吹風ハ  
温なりと東風ハ  
物長くと東風  
ハ物とけし西風  
よりハ生れ  
及之北風ハ物乃  
生れ成固たり  
北風南東乃風を  
ハ西海南西東回  
り吹風来り西  
降し西の風とハ  
雨降りぬる

暑を蔵仕  
初秋より田方より梅川之日  
和能く及畦一並相  
乾く庭成耕使  
扱解事史也  
用青西中藩東  
取

ハ西乃北風  
一志と雨と下り  
物と西風と北  
物とくく  
志金一其土地乃  
そのハ温湯の向  
背ハ西の雲ハ  
るをハて修ハ  
も多れとて  
乃しと耕他ハ  
ハ温湯の向  
ハ西の雲ハ  
ハ温湯の向  
ハ西の雲ハ

奉有侍平  
之御城年  
赤玉  
吟味  
石  
会冲



三季の彼岸は

波岸は

先曆記

二月中の月八日

乃由

四月の記

二八月乃七月

天



大康の... 橋... 目の中... 右の天...

山... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟...







二十天初と合せて三  
大不長あり故三年  
小国月ありてま  
と夏より夏四時  
が遠ざけて調  
り一を国と置かれ  
八月が夏小十月  
十二月迄之を国と  
置かれ春の季皆  
夏より一を国と  
置かれ子の年  
夏より一を国と  
置かれ子の年  
夏より一を国と  
置かれ子の年

調  
二百六十日二十天初  
の一年と四時令  
見れば九十二日二十天初  
十六日と也  
冬水ありて夏  
中  
ありて一年小  
く具  
六九十月と  
節小  
十二日土耐余

雨降く終日  
秋と甲子雨降く終日  
は  
寧好  
首  
年拾  
止

少年  
社領  
法  
右  
水

百生



七月小倉一其介  
刻限より十日府  
余のちと土用とす  
其七月は終に立夏  
立秋を立春小八  
刻が限之古より曆  
世四五のお目小唐  
才也の叔右の二年  
二百六十八元八刻と  
四分て九十百三十  
刻十六ちつはゆを  
七月十八日共六刻十  
五分のつとをいふ  
二百刻つとをいふ

十月六期十ふか  
今をくをいふと  
七十二日刻ふありて  
一年はあゆの月と  
平常のあゆとあり  
七月はあゆの月と  
夏六月の七期八  
月のの七期中いふ  
ちの火を母とて金  
と子とす六月はあ  
火と秋の金のあゆ  
一と火生去去金  
のちのあゆと一

右と左の刻をいふ  
相傷と刻下へ  
生通用、向文也へ  
素也扱をいふ  
農具衣改強激  
犁馬把竹把  
桶天秤柄籠箕  
扱拍振掘簞木  
勒回杭輾造木  
的控磨杆箕泥  
絞篋子石持篩  
類販扱の病に



の中央のしどもく  
 故六月の古月紙を  
 夏と号する友の火  
 用とる事也其の  
 古月の古月紙の  
 茶本と切紙の事  
 八十八夜  
 名残の糶乃夏



てかて大槪三月の  
 中と四月の節との  
 同くあるれり世に  
 乃唯今成りよさん  
 りう形もまふ小娘  
 霜もふより消失

家業傳の先代成程の  
 継緒に任立下但実富の  
 日は二階志とて継統流  
 多々之廻門の持垣昇実乃  
 藤指子多子物名時石  
 在根の草芽青有在善子

松杉板根松檜梅桃栗榎  
 葉藉海刺角人家の巡  
 塩漬構竹藪高岩を圍  
 馬込多く杜重倉又朝夕  
 食物も麦控割批米粉



て清きるがゆえに  
世俗十八夜の  
雨霜といふも  
限る相の降るは  
あつたれかる

入梅の宜 梅  
粟花落

入梅の宜法 諸説  
あるを後示記 梅  
あつたれかる  
六時迄 本草綱目  
志 入梅  
後 梅

今六月節の後  
梅の葉 梅  
節 梅  
世 梅

刻陳念年或 陳  
芋 芋  
鐘 鐘  
の の  
徑 徑  
自 自

町 町  
日 日  
乙 乙  
以 以  
世 世  
檢 檢



時分ハ葉の類ニ  
比レバ 霞の降  
ルル比 霧の垂ルル  
如ク 命のつゞき  
ハ 命のつゞき  
ハ 命のつゞき  
ハ 命のつゞき

半夏生の意

八月の中を十日也  
夏草の生るる時  
夏草の生るる時  
夏草の生るる時  
夏草の生るる時

早魁小雨と祈  
或人の家傳  
早魁小雨と祈  
或人の家傳  
早魁小雨と祈  
或人の家傳

深淵の底  
所をゆく  
捕(四方)小幣  
立相の上

情をく 威をく 榮をく  
持をく 威をく 榮をく  
持をく 威をく 榮をく  
持をく 威をく 榮をく  
持をく 威をく 榮をく  
持をく 威をく 榮をく

今恨 威光 追恨  
今恨 威光 追恨  
今恨 威光 追恨  
今恨 威光 追恨  
今恨 威光 追恨  
今恨 威光 追恨



十年今之世花...  
 千本瓜讀浦...  
 其意とくく...  
 沈れ必大...  
 龍神...  
 秋の...



御授御法...  
 慈恩相守...  
 例...  
 皇...  
 婦...  
 有...  
 天...  
 家...

御授御法...  
 慈恩相守...  
 例...  
 皇...  
 婦...  
 有...  
 天...  
 家...

天明二歲壬寅十月同九歲己酉三月發行  
 御江戸常盤橋御門本町筋北八町目通  
 書林 耕書堂 葛屋重三郎



